

## 木 飛騨市の木育を広める会が初めて開催 のおもちゃ

7月7日（木） ハートピア古川

飛騨市の木育を広める会(池田明美会長)は、市内の子どもたちを対象とした「木のおもちゃ広場」を河合・宮川(6月22日)、神岡(6月28日)、古川(7月7日)子育て支援センターで開きました。

これは、子どもたちが木のおもちゃに触れ、木のぬくもりを通して豊かな心を育んでほしいと同会で初めて企画。

この日は、県から借りた木のおもちゃが会場に用意され、参加した乳幼児と母親らが一緒に積み木などの木のおもちゃで遊びました。また、木に関する絵本の読み聞かせなども行われました。



木のおもちゃで遊ぶ子どもたち

## 地 飛騨市シルバー人材センターがボランティア 地域の環境美化に貢献

7月1日（金） 市内各地

飛騨市シルバー人材センターの会員が7月1日、市内の公共施設とその周辺で草取りやごみ拾い、木の剪定などの奉仕活動を行いました。

この活動は、地域の環境美化に貢献しようと毎年行われており、今年は60～80代の男女会員124人が参加。市役所周辺、古川町公民館、ハートピア古川、ふれあい広場や旧神岡東小学校、桜ヶ丘体育館など数カ所に分かれて、草取りやごみ拾いなどに汗を流しました。



草取り作業を行う会員

## よ 古川中学校MSJリーダーズの証 交付式 り良い地域社会を目指して

7月12日（火） 古川中学校

MSJ(マナーズ・スピリット・ジュニア)リーダーズの証交付式が7月12日、古川中学校で行われました。

MSJリーダーズは、中学生が自主的に参加するボランティアで、同校では49人が参加しています。生徒らは、警察と連携して防犯や交通安全、環境美化などの社会貢献活動に取り組めます。

式では、飛騨警察署の山角暁弘署長が生徒会長の田上龍さんに証を手渡しました。

また、式の後には県内他校の活動事例として、あいさつ運動や薬物乱用防止講習などが紹介されました。



証を受け取る田上さん

## 命 神岡小学校でジュニアパラメディック の大切さを学ぶ

7月4日（月） 神岡小学校

飛騨市消防本部では、地域の安全確保について積極的に行動できる意識の普及、人材の育成を目的とした講習「命をつなごうジュニアパラメディックプロジェクト」を市内の小中学校で行いました。

この講習は飛騨市独自の試みで、市内全校の小学校4年生から中学校2年生を対象に、成長段階に合わせて「命の大切さ」や「命の守り方」を5年間で学びます。

この日は、神岡小学校の4年生41人の児童が、自ら考えたことや、感じたことを発表し、「命の大切さ」や「自分の命はみんなに繋がっている」ことを学びました。



命の大切さを考える児童ら

## ロボットプロレス「できんのか!」 リングで熱戦を繰り広げる

7月17日(日) 船津座

二足歩行ロボットで行われるロボットプロレス「できんのか!」が7月17日、神岡町の地域交流センター船津座で行われました。

ロボットプロレスは、2008年に埼玉県草加市で始まり、27回目を迎える今回は地元の飛騨神岡高校ロボット部も参加しました。

大会には計9体のロボットが登場。集まった約250人はリング上のロボットによるパフォーマンスを楽しみました。



大勢の観客の中、行われたロボットプロレス

## (株)ユアソフトが県内2社目に認定 ユースエール認定で青少年の雇用促進

7月12日(火) 市長室

(株)ユアソフト(神岡町東雲)は、「ユースエール認定」に認定されたことを受け、7月12日に市長に報告しました。

同認定は、若者雇用促進法に基づく認定制度で平成27年10月からスタートしています。育児休暇や有給休暇の取得率等が認定基準となり、同社は県内で2社目、全国では37社目に認定されました。

報告に訪れた同社の榎木仁管理部長は「取り組みが形となって現れた。これからも継続したい」と語りました。



認定証を持つ榎木部長(左)と都竹市長

## 原子力発電の賛否を討論 吉城高校 現代フォーラム

7月21日(木) 吉城高校

吉城高校は7月21日、同校で社会の課題を取り上げて議論する「第25回現代フォーラム」を行いました。

今回は「原子力発電のこれから～存続すべきか廃止すべきか～」をテーマに、2～3年生の男女生徒6人がパネリストとなり、「日本は地震の多い国なので、原発の危険性は他国よりも高い」「再生可能エネルギーがさらに進歩するまでは、原発の力を借りないといけないのでは」など賛成・反対の意見を申し合いました。

また、フォーラムでは、富山大学理工学研究の教授による講演も行われました。



自分の意見を述べる生徒

## 地下1000mの世界を体験 ジオ・スペース・アドベンチャー開催

7月16日(土)～17日(日) 神岡鉱山

神岡町の神岡鉱山やスーパーカミオカンデなどを見学する「GSA(ジオ・スペース・アドベンチャー)」が7月16日、17日の2日間開催され、2日間で全国から約800人が参加しました。

参加者はひんやりとした坑内で、神岡鉱山の歴史を学んだり、岩盤を砕く大型機械の見学などを行いました。

また、ニュートリノ観測装置「スーパーカミオカンデ」の見学も行われ、参加者は最先端の宇宙物理学を学びました。



坑内で大型機械の説明を受ける参加者





## 神岡 神岡町で伝統の「太子踊り」

7月24日（日） 神岡町

神岡町吉田の常蓮寺で24日の夜、太子踊りが行われました。

太子踊りは、常蓮寺に安置されている聖徳太子像の奉還を祝った住民の喜びの踊りで、約380年の歴史があります。現在は吉田太子踊り保存会が踊り継いでおり、県の重要無形民俗文化財に指定されています。

午後8時すぎ、境内中央のやぐらで太子ばやしが始まると、浴衣姿の女性や子どもが踊りの輪を作り、伝統の踊りを楽しんでいました。また、飛騨古川盆おどり同好会の一行も参加し、踊りの輪が幾重にも広がり、夜遅くまで伝統の踊りを楽しみました。



全員で輪になり太子踊りを行う参加者

## 親子で給食作りを体験

7月21日（木） 古川国府給食センター

古川国府給食センターは7月21日、高山市国府町の同センターで、夏休み親子給食作り「給食作ってみよう体験」を開催し、17組の親子が参加しました。

同センターでは、夏休みを利用して親子で学校給食への理解を深めてもらおうと、給食作り体験を毎年開催しています。

この日参加した児童らは、地元産食材を使ったカレーやフライドポテト、サラダなどを約70人分の調理を体験し、自分で調理した給食を親子で味わいました。



調理員に教わりながらスイカを切る児童

## K 最先端の宇宙物理学に触れる AGRA見学会に350人超

7月24日（日） 神岡町

大型低温重力波望遠鏡「KAGRA（かぐら）」の見学会が7月24日に神岡町で行われ、全国から350人を超える参加者が、最先端の宇宙物理学研究に触れました。

昨年完成したKAGRAでは、宇宙からの重力波を検出するため、地下200mに長さ3kmのパイプなどが設置されています。参加者は施設や機器を見学したり、研究者からの説明を受けるなどし、KAGRAについて学びました。

春に試運転を行ったKAGRAは、2017年度からの観測開始に向けて調整を続けています。



研究者から説明を受ける参加者

## 仮装などで夏を楽しむ

7月23日（土） 宮川保育園

7月23日、宮川保育園で夏まつりが行われ、園児4人をはじめ、保護者や地域住民なども参加しました。

まつりでは、園児によるお遊戯や合唱が行われたほか、仮装大会も行われました。園児はそれぞれがキャラクターなどになりきり、特製の衣装でランウェイやステージでポーズをとるなどし、披露しました。仮装大会には、未就園児も参加し、会場を盛り上げました。

このほかにも、地元バンドによるライブ、保護者会による射的やヨーヨー釣りといった出店が行われ、園児らは楽しい夏の時間を過ごしました。



仮装大会に参加した園児ら